

## 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画(案) 新旧対照表

箇所	旧	新	備考
目次	<b>参考資料</b> ……………127 資料 1 用語解説……………129 資料 2 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画策定会議……………131	<b>参考資料</b> ……………127 資料 1 用語解説……………129 資料 2 北海道新幹線新小樽(仮称)駅周辺まちづくり計画策定会議……………131 <u>資料 3 新小樽(仮称)駅周辺整備イメージ図……………134</u>	資料 3 の追加  ■変更理由 策定会議意見の反映
P12	<b>2) 観光の現況</b> <b>① 観光資源</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ぱるて築港地域</b></p> <p>大型複合商業施設であるウイングベイ小樽や石原裕次郎記念館が立地しており、飲食・ショッピング施設、アミューズメント機能が充実しています。また、小樽港マリーナでは、マリンレジャーを楽しむことができます。</p> </div>	<b>2) 観光の現況</b> <b>① 観光資源</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>ぱるて築港地域</b></p> <p>大型複合商業施設であるウイングベイ小樽が立地しており、飲食・ショッピング施設、アミューズメント機能が充実しています。また、小樽港マリーナでは、マリンレジャーを楽しむことができます。</p> </div>	文言の削除 ■変更理由 施設が平成 29 年 8 月末日で閉館予定のため
P20	<p style="text-align: center;">図 2-2-1 用途地域の指定状況</p>	<p style="text-align: center;">図 2-2-1 用途地域の指定状況</p>	図中に文言の追記  ■変更理由 本文中に記載された道路の追記し、わかりやすくするため
P40	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新小樽(仮称)駅と中心部のアクセス性</li> <li>・新小樽(仮称)駅と観光地へのアクセス性</li> <li>・新小樽(仮称)駅と各種交通結節点(JR 駅・IC・港)のアクセス性</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路網の整備</li> <li>・2次交通の充実(広域交通含む)</li> <li>・新幹線開業による交通量の把握</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>2 新小樽(仮称)駅との交通ネットワークの構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開業後の交通量の影響を踏まえた道路ネットワークの検討と整備</li> <li>・広域交通ネットワークの形成</li> <li>・様々な2次交通の確保</li> </ul> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新小樽(仮称)駅と中心部のアクセス性</li> <li>・新小樽(仮称)駅と観光地へのアクセス性</li> <li>・新小樽(仮称)駅と各種交通結節点(JR 駅・IC(インターチェンジ)・港)のアクセス性</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路網の整備</li> <li>・2次交通の充実(広域交通含む)</li> <li>・新幹線開業による交通量の把握</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;"><b>2 新小樽(仮称)駅との交通ネットワークの構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開業後の交通量の影響を踏まえた道路ネットワークの検討と整備</li> <li>・広域交通ネットワークの形成</li> <li>・様々な2次交通の確保</li> </ul> </div> </div>	文言の追記  ■変更理由 表現の統一のため

箇所	旧	新	備考
P46	<p>課題解決のための対応の方向性</p> <p>整備コンセプト： 新幹線整備効果を地域全体に活かすまちづくり 「小樽の新たな玄関口の形成」</p> <p>位置付け：主に北関東、東北、道南方面からの玄関口 役割：移動の中継地点</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>①来訪者を呼び込む魅力あるまちづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆街の魅力の向上（街並み整備、市民のおもてなし意識の醸成）</li> <li>◆観光の魅力の向上（広域観光連携、情報発信等含む）</li> <li>◆特産品の新開発</li> </ul> <p><b>②新小樽(仮称)駅との交通ネットワークの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新幹線開業後の交通量の影響を踏まえた道路ネットワークの検討と整備</li> <li>◆広域交通ネットワークの形成</li> <li>◆様々な2次交通の確保</li> </ul> <p><b>③新小樽(仮称)駅周辺地域における土地利用の方向性の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小樽市全体の土地利用の方向性を踏まえた土地利用・誘導機能の検討</li> <li>◆小樽の玄関口にふさわしい景観形成と地域環境の向上</li> <li>◆豊かな自然環境の保全・活用</li> </ul> <p><b>④交通結節点に求められる機能の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆円滑な交通結節点の形成</li> <li>◆情報発信機能の整備（移動経路案内等）</li> <li>◆周辺環境に馴染む駅舎デザインの検討</li> <li>◆附帯施設の充実（物産店など）</li> <li>◆駅構内の構造、規模、機能</li> <li>◆駐車場の構造</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>整備方針</b></p> <p>調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</p> <p><b>交通ネットワークの形成</b></p> <p>地域環境を生かした街並み・景観等の形成</p> <p><b>交通結節点における機能・施設の導入</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>定めるべき個別方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中心市街地との連携</li> <li>● 土地利用の規制・誘導</li> <li>● 市内各観光地との連携</li> <li>● 広域観光連携</li> <li>● <b>交通拠点</b>へのアクセス</li> <li>● 市内各観光地へのアクセス</li> <li>● 2次交通の確保・充実</li> <li>● 広域周遊</li> <li>● 小樽らしい街並みの形成</li> <li>● 駅舎の景観形成</li> <li>● 新小樽(仮称)駅周辺の自然環境の活用</li> <li>● 駅前広場の整備</li> <li>● 駐車場の整備</li> <li>● 情報発信機能・附帯機能等の整備</li> </ul> </div> </div>	<p>課題解決のための対応の方向性</p> <p>整備コンセプト： 新幹線整備効果を地域全体に活かすまちづくり 「小樽の新たな玄関口の形成」</p> <p>位置付け：主に北関東、東北、道南方面からの玄関口 役割：移動の中継地点</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>①来訪者を呼び込む魅力あるまちづくりの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆街の魅力の向上（街並み整備、市民のおもてなし意識の醸成）</li> <li>◆観光の魅力の向上（広域観光連携、情報発信等含む）</li> <li>◆特産品の新開発</li> </ul> <p><b>②新小樽(仮称)駅との交通ネットワークの形成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新幹線開業後の交通量の影響を踏まえた道路ネットワークの検討と整備</li> <li>◆広域交通ネットワークの形成</li> <li>◆様々な2次交通の確保</li> </ul> <p><b>③新小樽(仮称)駅周辺地域における土地利用の方向性の検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆小樽市全体の土地利用の方向性を踏まえた土地利用・誘導機能の検討</li> <li>◆小樽の玄関口にふさわしい景観形成と地域環境の向上</li> <li>◆豊かな自然環境の保全・活用</li> </ul> <p><b>④交通結節点に求められる機能の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆円滑な交通結節点の形成</li> <li>◆情報発信機能の整備（移動経路案内等）</li> <li>◆周辺環境に馴染む駅舎デザインの検討</li> <li>◆附帯施設の充実（物産店など）</li> <li>◆駅構内の構造、規模、機能</li> <li>◆駐車場の構造</li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>整備方針</b></p> <p>調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</p> <p><b>交通ネットワークの形成</b></p> <p>地域環境を生かした街並み・景観等の形成</p> <p><b>交通結節点における機能・施設の導入</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>定めるべき個別方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中心市街地との連携</li> <li>● 土地利用の規制・誘導</li> <li>● 市内各観光地との連携</li> <li>● 広域観光連携</li> <li>● <b>交通結節点</b>へのアクセス</li> <li>● 市内各観光地へのアクセス</li> <li>● 2次交通の確保・充実</li> <li>● 広域周遊</li> <li>● 小樽らしい街並みの形成</li> <li>● 駅舎の景観形成</li> <li>● 新小樽(仮称)駅周辺の自然環境の活用</li> <li>● 駅前広場の整備</li> <li>● 駐車場の整備</li> <li>● 情報発信機能・附帯機能等の整備</li> </ul> </div> </div>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>
P48	<p><b>4) 土地利用の規制・誘導</b></p> <p>(中略)</p> <p>区域内は、現状の土地利用を<b>ベース</b>としながらも、新小樽(仮称)駅周辺地域にふさわしい土地利用の形成に向けた規制・誘導方策を検討し、新幹線の開業効果を見込んだ<b>無秩序な開発を抑制しつつ、将来的な地域の環境改善を推進します。</b></p>	<p><b>4) 土地利用の規制・誘導</b></p> <p>(中略)</p> <p>区域内は、現状の土地利用を<b>基本</b>としながらも、新小樽(仮称)駅周辺地域にふさわしい土地利用の形成に向けた規制・誘導方策を検討し、新幹線の開業効果を見込んだ<b>無秩序な開発を抑制しつつ、将来的な地域の環境改善を推進します。</b></p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 わかりやすい表記とするため</p>
P49	<p><b>(2) 交通ネットワークの形成</b></p> <p>新小樽(仮称)駅は市街地の縁辺に位置し、中心市街地からは距離があることから、新幹線利用の来訪客がスムーズに小樽市内や周辺観光地などの目的地へアクセスできることが重要です。</p> <p>そのため、新小樽(仮称)駅と市内の主要な<b>交通拠点</b>・観光地とのネットワーク形成やバス等での2次交通の確保・充実の方策や広域周遊交通に関する方針が必要であり、「交通ネットワークの形成」として、以下の4つの個別方針を設定します。</p>	<p><b>(2) 交通ネットワークの形成</b></p> <p>新小樽(仮称)駅は市街地の縁辺に位置し、中心市街地からは距離があることから、新幹線利用の来訪客がスムーズに小樽市内や周辺観光地などの目的地へアクセスできることが重要です。</p> <p>そのため、新小樽(仮称)駅と市内の主要な<b>交通結節点</b>・観光地とのネットワーク形成やバス等での2次交通の確保・充実の方策や広域周遊交通に関する方針が必要であり、「交通ネットワークの形成」として、以下の4つの個別方針を設定します。</p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>

箇所	旧	新	備考
P49	<p><b>1) 交通拠点とのアクセス</b></p> <p>市内 JR 各駅や高速道路各 IC (インターチェンジ)、小樽港を結ぶ<u>主要なアクセス道路を設定することが重要です。主要なアクセス道路は、現道の活用を基本としますが、新小樽 (仮称) 駅と各交通拠点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</u></p>	<p><b>1) 交通結節点とのアクセス</b></p> <p>市内 JR 各駅や高速道路各 IC (インターチェンジ)、小樽港を結ぶ<u>主要なアクセス道路を設定することが重要です。主要なアクセス道路は、現道の活用を基本としますが、新小樽 (仮称) 駅と各交通結節点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</u></p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>
P51	<p><b>2) 市内各観光地とのアクセス</b></p> <p>市内の主要な観光エリアである「祝津・高島地域」、「中央・手宮地域」、「ばるて築港地域」、「天狗山地域」、「朝里川温泉地域」へのアクセス道路は、<u>現道の活用を基本とし、交通拠点とのアクセス道路に準ずることとします。</u>(図 3-2-5)</p>	<p><b>2) 市内各観光地とのアクセス</b></p> <p>市内の主要な観光エリアである「祝津・高島地域」、「中央・手宮地域」、「ばるて築港地域」、「天狗山地域」、「朝里川温泉地域」へのアクセス道路は、<u>現道の活用を基本とし、交通結節点とのアクセス道路に準ずることとします。</u>(図 3-2-5)</p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>
P65	<p style="text-align: center;"><b>土地利用計画の基本的な考え方</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>まちづくり方針 1 : 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地との連携</li> <li>・市内各観光地との連携</li> <li>・広域観光連携</li> <li>・土地利用の規制・誘導</li> </ul> </div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的に、新小樽(仮称)駅周辺地域で大規模な商業施設の立地等、新たな核の形成を抑制するものとします。</li> <li>●現状の土地利用を<u>ベース</u>としながらも、無秩序な開発を抑制しつつ、将来的な地域の環境改善を推進します。</li> <li>●新小樽(仮称)駅正面となるエリアについては、交通結節点として求められる機能・施設(駅前広場、駐車場)を適切に配置します。</li> <li>●規制・誘導を検討する区域は、天神十字街以南の市街地の内、道道天神南小樽停車場線の沿線及びその周辺とします。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>土地利用計画の基本的な考え方</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>まちづくり方針 1 : 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地との連携</li> <li>・市内各観光地との連携</li> <li>・広域観光連携</li> <li>・土地利用の規制・誘導</li> </ul> </div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的に、新小樽(仮称)駅周辺地域で大規模な商業施設の立地等、新たな核の形成を抑制するものとします。</li> <li>●現状の土地利用を<u>基本</u>としながらも、無秩序な開発を抑制しつつ、将来的な地域の環境改善を推進します。</li> <li>●新小樽(仮称)駅正面となるエリアについては、交通結節点として求められる機能・施設(駅前広場、駐車場)を適切に配置します。</li> <li>●規制・誘導を検討する区域は、天神十字街以南の市街地の内、道道天神南小樽停車場線の沿線及びその周辺とします。</li> </ul>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 わかりやすい表記とするため</p>
P68	<p><b>3) 利便機能誘導ゾーン</b></p> <p>現状の住宅を中心とした土地利用を<u>ベース</u>としながらも、新小樽 (仮称) 駅に隣接した立地の特長から、広域交通の結節点として利便性を強化する機能 (レンタカー、商業、宿泊等)、事業所などの業務機能等について民間企業の進出希望があった際には、事業者、地権者など関係者との調整を行い、このゾーンへ誘導します。(図 4-2-7)</p>	<p><b>3) 利便機能誘導ゾーン</b></p> <p>現状の住宅を中心とした土地利用を<u>基本</u>としながらも、新小樽 (仮称) 駅に隣接した立地の特長から、広域交通の結節点として利便性を強化する機能 (レンタカー、商業、宿泊等)、事業所などの業務機能等について民間企業の進出希望があった際には、事業者、地権者など関係者との調整を行い、このゾーンへ誘導します。(図 4-2-7)</p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 わかりやすい表記とするため</p>
P72	<p><b>○まちづくり方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</li> <li>2 交通ネットワークの形成</li> <li>3 <u>地域環境を生かした街並み・景観等の形成</u> →</li> <li>4 交通結節点における機能・施設の導入</li> </ol> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>●情報発信機能・附帯機能等の整備</p> <p>・新小樽(仮称)駅の利用者には、様々なニーズがあると考えられます。これらニーズを満たすため、駅利用者数を想定し、必要な情報発信機能、附帯機能を検討し、施設管理者と協議を進めます。</p> </div>	<p><b>○まちづくり方針</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 調和のとれた土地利用の形成・観光との連携</li> <li>2 交通ネットワークの形成</li> <li>3 地域環境を生かした街並み・景観等の形成</li> <li>4 <u>交通結節点における機能・施設の導入</u> →</li> </ol> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>●情報発信機能・附帯機能等の整備</p> <p>・新小樽(仮称)駅の利用者には、様々なニーズがあると考えられます。これらニーズを満たすため、駅利用者数を想定し、必要な情報発信機能、附帯機能を検討し、施設管理者と協議を進めます。</p> </div>	<p>下線の箇所の変更</p> <p>■変更理由 下線箇所の誤りのため</p>

箇所	旧	新	備考
P83	<p style="text-align: center;"><b>道路計画の基本的な考え方</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>まちづくり方針2： 交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通拠点とのアクセス</li> <li>・観光地とのアクセス</li> <li>・2次交通の確保・充実</li> <li>・広域周遊</li> </ul> </div> <p>●JR 各駅、各 IC、小樽港を結ぶ主要なアクセス道路は、現道の活用を基本としますが、新小樽(仮称)駅と各交通拠点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</p> <p>●主要な観光地へのアクセス道路は、現道の活用を基本とし、交通拠点とのアクセス道路に準ずることとします。</p>	<p style="text-align: center;"><b>道路計画の基本的な考え方</b></p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>まちづくり方針2： 交通ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通結節点とのアクセス</li> <li>・観光地とのアクセス</li> <li>・2次交通の確保・充実</li> <li>・広域周遊</li> </ul> </div> <p>●JR 各駅、各 IC、小樽港を結ぶ主要なアクセス道路は、現道の活用を基本としますが、新小樽(仮称)駅と各交通結節点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</p> <p>●主要な観光地へのアクセス道路は、現道の活用を基本とし、交通結節点とのアクセス道路に準ずることとします。</p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>
P85	<p style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"><b>(4) 交通量推計結果に基づく道路計画</b></p> <p>交通量推計結果を新幹線駅へのアクセス道路別に整理した一覧表を以下に示し、混雑度 1.0 を超える区間はなく、市内道路への影響は少ないものと判断されます。(表 4-4-3, 図 4-4-3)</p> <p>将来の交通量を考慮すると、道路の新設や大規模な道路拡幅などは不要と考えられますが、新小樽(仮称)駅と各交通拠点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</p> <p>なお、道路改良が必要となる場合は、歩道や街路灯の高質化など、景観への配慮に努めることとします。</p>	<p style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"><b>(4) 交通量推計結果に基づく道路計画</b></p> <p>交通量推計結果を新幹線駅へのアクセス道路別に整理した一覧表を以下に示し、混雑度 1.0 を超える区間はなく、市内道路への影響は少ないものと判断されます。(表 4-4-3, 図 4-4-3)</p> <p>将来の交通量を考慮すると、道路の新設や大規模な道路拡幅などは不要と考えられますが、新小樽(仮称)駅と各交通結節点との間で円滑なアクセスを図るため、必要に応じ、道路の改良を検討するなど、道路交通の安全性を高めることとします。</p> <p>なお、道路改良が必要となる場合は、歩道や街路灯の高質化など、景観への配慮に努めることとします。</p>	<p>文言の変更</p> <p>■変更理由 表現の統一のため</p>
P100	<p><b>ウ. 外国人対応の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人利用者の移動円滑化に向けて、バス車内アナウンスや交通結節点(JR 駅、IC(インターチェンジ)、港)における案内・サイン、路線図・時刻表などの各種パンフレット、ホームページ等における多言語対応を検討します。</li> <li>・バスやタクシー運転手の外国人対応力の強化に向けた研修会等によるスキルアップ方策やイラスト等を用いたコミュニケーションツール導入を検討します。</li> </ul>	<p><b>ウ. 外国人対応の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人利用者の移動円滑化に向けて、バス車内アナウンスや各種交通結節点(JR 駅、IC(インターチェンジ)、港)における案内・サイン、路線図・時刻表などの各種パンフレット、ホームページ等における多言語対応を検討します。</li> <li>・バスやタクシー運転手の外国人対応力の強化に向けた研修会等によるスキルアップ方策やイラスト等を用いたコミュニケーションツール導入を検討します。</li> </ul>	<p>文言の追記</p> <p>■変更理由 補足のため</p>
P102	<p style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"><b>(1) ソフト対策の必要性</b></p> <p>(中略)</p> <p>これらの取組に当たっては、新幹線に係る基盤施設整備に加え、行政や市民、企業、大学が一体となり、ハードを活用するソフトが重要となってきます。そのため、小樽のまちそのものの魅力や観光の魅力を磨きあげること、新たな観光客の受入体制の整備などに取り組むことが必要です。(図 5-2-1)</p>	<p style="background-color: #e6f2ff; padding: 5px;"><b>(1) ソフト対策の必要性</b></p> <p>(中略)</p> <p>これらの取組に当たっては、新幹線に係る基盤施設整備に加え、行政や市民、企業、大学等が一体となり、ハードを活用するソフトが重要となってきます。そのため、小樽のまちそのものの魅力や観光の魅力を磨きあげること、新たな観光客の受入体制の整備などに取り組むことが必要です。(図 5-2-1)</p>	<p>文言の追記</p> <p>■変更理由 その他の主体が参画する可能性があるため</p>

箇所	旧	新	備考
P117	<p><b>ア. アクションプランの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民連携組織が作成したアクションプランに基づき事業を推進します。</li> <li>・適宜、市民、事業者の方々の意向の把握に努め、定期的な取組の見直しを検討します。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次交通対策の検討 <u>(再掲)</u></li> <li>・新幹線とクルーズ客船を活用した旅行商品の開発 (再掲)</li> <li>・北関東、東北、道南方面へのPRの実施 (再掲)</li> <li>・地元産品を使用した「おもてなし弁当」の検討 (再掲)</li> <li>・多様な情報媒体を通じた情報発信 (パンフレット、HP、SNS など) (再掲)</li> <li>・小中高校生向けの出前教室の実施 (再掲)</li> <li>・開業前イベントの実施 (1年前、200日、100日など) (再掲)</li> <li>・新小樽 (仮称) 駅への停車に向けた協議 など</li> </ul> </div>	<p><b>ア. アクションプランの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民連携組織が作成したアクションプランに基づき事業を推進します。</li> <li>・適宜、市民、事業者の方々の意向の把握に努め、定期的な取組の見直しを検討します。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次交通対策の検討</li> <li>・新幹線とクルーズ船・フェリーを組み合わせた旅行商品の開発 (再掲)</li> <li>・北関東、東北、道南方面へのPRの実施 (再掲)</li> <li>・地元産品を使用した「おもてなし弁当」の検討 (再掲)</li> <li>・多様な情報媒体を通じた情報発信 (パンフレット、HP、SNS など) (再掲)</li> <li>・小中高校生向けの出前教室の実施 (再掲)</li> <li>・開業前イベントの実施 (1年前、200日、100日など) (再掲)</li> <li>・新小樽 (仮称) 駅への停車本数の増強に向けた協議 など</li> </ul> </div>	<p>①文言の削除 ②文言の変更 ③文言の追加</p> <p>■変更理由 ①誤りのため ②③わかりやすい表現に変更</p>
P120	<p><b>ア. 広域連携事業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携組織が作成したアクションプランに基づき事業を推進します。</li> <li>・例えば、小樽市を中心とした北後志地域等を世界から注目されるエリアとして認知されるよう、倶知安・ニセコも含む北後志地域等の市町村と連携したプロモーション活動やイベントの実施、エリア一体のブランド化について検討します。</li> <li>・また、新幹線駅を起点に、北後志地域等の圏域を周遊してもらうための観光ルートづくりや2次交通対策について検討します。</li> <li>・山や海、果樹、景観などの地域資源を生かした着地型旅行商品の開発や体験型・滞在型観光メニューの充実などの広域で連携した取組について検討します。</li> <li>・適宜、市民、事業者の方々の意向の把握に努め、定期的な取組の見直しを検討します。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次交通対策の検討 <u>(再掲)</u></li> <li>・各市町村が一体となった戦略的なプロモーション、イベントの実施 <u>(再掲)</u></li> <li>・北後志地域等が連携したエリア一体のブランド化検討 <u>(再掲)</u></li> <li>・ブランド展開ツールの作成 (ロゴ、コンセプト等) <u>(再掲)</u></li> <li>・体験型・滞在型観光メニューの充実 <u>(再掲)</u></li> <li>・観光商品の開発 <u>(再掲)</u></li> <li>・一括した情報発信 <u>(再掲)</u></li> </ul> </div>	<p><b>ア. 広域連携事業の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域連携組織が作成したアクションプランに基づき事業を推進します。</li> <li>・例えば、小樽市を中心とした北後志地域等を世界から注目されるエリアとして認知されるよう、倶知安・ニセコも含む北後志地域等の市町村と連携したプロモーション活動やイベントの実施、エリア一体のブランド化について検討します。</li> <li>・また、新幹線駅を起点に、北後志地域等の圏域を周遊してもらうための観光ルートづくりや2次交通対策について検討します。</li> <li>・山や海、果樹、景観などの地域資源を生かした着地型旅行商品の開発や体験型・滞在型観光メニューの充実などの広域で連携した取組について検討します。</li> <li>・適宜、市民、事業者の方々の意向の把握に努め、定期的な取組の見直しを検討します。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次交通対策の検討</li> <li>・各市町村が一体となった戦略的なプロモーション、イベントの実施</li> <li>・北後志地域等が連携したエリア一体のブランド化検討</li> <li>・ブランド展開ツールの作成 (ロゴ、コンセプト等)</li> <li>・体験型・滞在型観光メニューの充実</li> <li>・観光商品の開発</li> <li>・一括した情報発信</li> </ul> </div>	<p>文言の削除</p> <p>■変更理由 誤りのため</p>

箇所	旧	新	備考
P129	<p><b>資料1 用語解説</b>  <b>【あ】</b>  <b>空き家・空き地バンク</b> <u>（平成 21 年 12 月制定）</u>  小樽市内にある空き家・空き地の物件情報を登録し、公開することによって、物件の有効活用を図り、市への定住人口や地域の活性化を促進するための制度。</p> <p><b>アダプトプログラム</b>  市民と行政が協働で進めるまち美化プログラムのこと。「アダプト」とは「養子縁組する」という意味であり、企業や地域住民などが道路や公園など一定の公共の場所の里親となり、定期的・継続的に清掃活動や植栽等を行い、行政がこれを支援する仕組みをいう。</p> <p><b>S N S</b>  Social Networking Service の略。インターネット上の交流を通して、人と人とのつながりを促進サポートし、社会的なネットワークを構築するコミュニティ型のインターネットサービスのこと。</p> <p><b>小樽市屋外広告物条例</b> <u>（平成 24 年 7 月施行）</u>  北海道から一部権限移譲を受け、屋外広告物の形態意匠、色彩等の具体的な規制内容等を条例に盛り込むことで、良好な景観の形成・風致の維持・公衆に対する危害の防止を図るとともに、建築物工作物と一体となった小樽らしい景観形成を図るために制定。</p> <p><b>小樽市景観計画</b> <u>（平成 21 年 4 月施行）</u>  小樽市は、歴史ある街並みを将来にわたって守るため、平成 18 年 11 月に景観法に基づく景観行政団体となり、景観行政の指針となる「小樽市景観計画」を策定し、平成 21 年 4 月から施行。歴史、文化などから見て、小樽らしい良好な景観を形成している重要な区域を小樽歴史景観区域として指定。</p> <p><b>小樽市都市計画マスタープラン</b> <u>（平成 15 年 4 月策定）</u>  小樽市総合計画における土地利用・都市施設整備など都市づくりの分野について、その骨格となる事項を受け、市民参加を得ながら作成する都市計画の基本的な方針となる計画。</p> <p><b>オープンガーデン</b>  個人や店舗などが手入れしている庭を一般に公開すること。</p> <p><b>【か】</b>  <b>交通結節点</b>  交通結節点は、異なる交通手段（場合によっては鉄道から鉄道など同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設で、一連の移動の動きの中で、「つなぐ空間」と「たまる空間」の役割を有する。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由通路や階段、駅前広場などが挙げられる。</p> <p><b>【さ】</b>  <b>市街化調整区域</b>  都市計画法において、「市街化を抑制すべき区域」として指定された区域のこと。</p> <p><b>スマート IC</b>  高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジで、ETC（Electronic Toll Collection System：料金支払い自動化システム）を搭載した車両に限定しているインターチェンジのこと。</p> <p><b>【た】</b>  <b>第 6 次小樽市総合計画</b> <u>（平成 21 年 4 月策定）</u>  小樽市における全ての計画の基本となる計画であり、最上位に位置づけられる計画。小樽市が目指す将</p>	<p><b>資料1 用語解説</b>  <b>【あ】</b>  <b>空き家・空き地バンク</b> <u>《P69》</u>  小樽市内にある空き家・空き地の物件情報を登録し、公開することによって、物件の有効活用を図り、市への定住人口や地域の活性化を促進するための制度。<u>（平成 21 年 12 月制定）</u></p> <p><b>アダプトプログラム</b> <u>《P106》</u>  市民と行政が協働で進めるまち美化プログラムのこと。「アダプト」とは「養子縁組する」という意味であり、企業や地域住民などが道路や公園など一定の公共の場所の里親となり、定期的・継続的に清掃活動や植栽等を行い、行政がこれを支援する仕組みをいう。</p> <p><b>S N S</b> <u>《P106》</u>  Social Networking Service の略。インターネット上の交流を通して、人と人とのつながりを促進サポートし、社会的なネットワークを構築するコミュニティ型のインターネットサービスのこと。</p> <p><b>小樽市屋外広告物条例</b> <u>《P70》</u>  北海道から一部権限移譲を受け、屋外広告物の形態意匠、色彩等の具体的な規制内容等を条例に盛り込むことで、良好な景観の形成・風致の維持・公衆に対する危害の防止を図るとともに、建築物工作物と一体となった小樽らしい景観形成を図るため制定。<u>（平成 24 年 7 月施行）</u></p> <p><b>小樽市景観計画</b> <u>《P70》</u>  小樽市は、歴史ある街並みを将来にわたって守るため、平成 18 年 11 月に景観法に基づく景観行政団体となり、景観行政の指針となる「小樽市景観計画」を策定。歴史、文化などから見て、小樽らしい良好な景観を形成している重要な区域を小樽歴史景観区域として指定。<u>（平成 21 年 4 月施行）</u></p> <p><b>小樽市都市計画マスタープラン</b> <u>《P3》</u>  小樽市総合計画における土地利用・都市施設整備など都市づくりの分野について、その骨格となる事項を受け、市民参加を得ながら作成する都市計画の基本的な方針となる計画。<u>（平成 15 年 4 月策定）</u></p> <p><b>オープンガーデン</b> <u>《P106》</u>  個人や店舗などが手入れしている庭を一般に公開すること。</p> <p><b>【か】</b>  <b>交通結節点</b> <u>《P24》</u>  交通結節点は、異なる交通手段（場合によっては鉄道から鉄道など同じ交通手段）を相互に連絡する乗り換え・乗り継ぎ施設で、一連の移動の動きの中で、「つなぐ空間」と「たまる空間」の役割を有する。具体的な施設としては、鉄道駅、バスターミナル、自由通路や階段、駅前広場などが挙げられる。</p> <p><b>【さ】</b>  <b>市街化調整区域</b> <u>《P20》</u>  都市計画法において、「市街化を抑制すべき区域」として指定された区域のこと。</p> <p><b>スマート IC</b> <u>《P29》</u>  高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア、バスストップから乗り降りができるように設置されるインターチェンジで、ETC（Electronic Toll Collection System：料金支払い自動化システム）を搭載した車両に限定しているインターチェンジのこと。</p> <p><b>【た】</b>  <b>第 6 次小樽市総合計画</b> <u>《P3》</u>  小樽市における全ての計画の基本となる計画であり、最上位に位置づけられる計画。小樽市が目指す将</p>	<p>最初に掲載されるページ番号の追記(<b>全用語</b>)および策定年月の表記場所の修正</p> <p>■変更理由  わかりやすく表現するため、最初に掲載されるページ番号を追記。  また、参照先の本文中には策定年月が記載されていないため削除。</p>

箇所	旧	新	備考
	<p>来都市像とそれを実現するための基本的方向を示す「基本構想」（目標年次：平成 30 年度）と、基本構想の方向に沿って、分野ごとに施策の体系や展開方向、主要事業を示す「基本計画」、具体的な施策や事業を明らかにする「実施計画」で構成される。</p> <p><b>第 4 回道央都市圏パーソントリップ調査</b>            パーソントリップ調査とは、「どのような人が」「いつ」「どこからどこへ」「どんな目的で」「どんな交通手段で」移動しているかを把握することを目的とした調査。札幌市を中心に、通勤・通学や買い物など交通面でつながりの強い地域を「道央都市圏」として調査対象範囲を設定。「道央都市圏」では、昭和 47 年の第 1 回目の調査から、概ね 10 年おきに調査が実施されており、平成 18 年に第 4 回目の調査を実施した。</p> <p><b>端末交通</b>            駅利用者が「駅まで」「駅から」の利用する交通手段のこと。</p> <p><b>地区計画</b>            地区計画は、既に定められている都市計画を前提に、ある一定のまとまりを持った地区を対象に、地区の課題や特徴を踏まえ、住民と行政とが連携しながら、地区の目指すべき将来像を設定し、それぞれの地区の特性にふさわしいまちづくりを誘導するための計画。</p> <p><b>着地型旅行商品</b>            旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品のこと。旅行先で参加するオプションツアーのようなもの。</p> <p><b>デジタルサイネージ</b>            屋外・店頭・公共空間・交通機関などにおいて、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムを総称して「デジタルサイネージ」と呼ぶ。</p> <p><b>デスティネーション・キャンペーン</b>            デスティネーションとは、旅行目的地、旅行先のこと。その範囲は行政区単位とは限らず、国や都市、地域全体を指すことがある。「デスティネーション・キャンペーン」は、一定期間さまざまな手段を用いて旅行目的地の広告宣伝活動を行うこと。</p> <p><b>テーブルディスカッション</b>            テーブルを囲み、設定されたテーマについて自由に意見を交換しながら議論する場。</p> <p><b>【な】 2 次交通</b>            飛行機や鉄道などの基幹的な交通手段（空港・鉄道駅）から、移動の目的地までを結ぶ交通のこと。</p> <p><b>【は】 パーク＆ライド</b>            自宅から自家用車で最寄りの駅まで行き、車を駐車させた後、鉄道などの公共交通機関を利用して目的地に向かうシステムのこと。</p> <p><b>フットパス</b>            イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと（Foot）ができる小径（こみち、Path）」のこと。</p> <p><b>並行在来線</b>            新幹線区間を並行する形で運行する在来線鉄道のこと。</p>	<p>来都市像とそれを実現するための基本的方向を示す「基本構想」（目標年次：平成 30 年度）と、基本構想の方向に沿って、分野ごとに施策の体系や展開方向、主要事業を示す「基本計画」、具体的な施策や事業を明らかにする「実施計画」で構成される。<u>（平成 21 年 4 月策定）</u></p> <p><b>第 4 回道央都市圏パーソントリップ調査</b><u>《P83》</u>            パーソントリップ調査とは、「どのような人が」「いつ」「どこからどこへ」「どんな目的で」「どんな交通手段で」移動しているかを把握することを目的とした調査。札幌市を中心に、通勤・通学や買い物など交通面でつながりの強い地域を「道央都市圏」として調査対象範囲を設定。「道央都市圏」では、昭和 47 年の第 1 回目の調査から、概ね 10 年おきに調査が実施されており、平成 18 年に第 4 回目の調査を実施した。</p> <p><b>端末交通</b> <u>《P61》</u>            駅利用者が「駅まで」「駅から」の利用する交通手段のこと。</p> <p><b>地区計画</b> <u>《P69》</u>            地区計画は、既に定められている都市計画を前提に、ある一定のまとまりを持った地区を対象に、地区の課題や特徴を踏まえ、住民と行政とが連携しながら、地区の目指すべき将来像を設定し、それぞれの地区の特性にふさわしいまちづくりを誘導するための計画。</p> <p><b>着地型旅行商品</b> <u>《P106》</u>            旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品のこと。旅行先で参加するオプションツアーのようなもの。</p> <p><b>デジタルサイネージ</b> <u>《P29》</u>            屋外・店頭・公共空間・交通機関などにおいて、ディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するシステムを総称して「デジタルサイネージ」と呼ぶ。</p> <p><b>デスティネーション・キャンペーン</b> <u>《P106》</u>            デスティネーションとは、旅行目的地、旅行先のこと。その範囲は行政区単位とは限らず、国や都市、地域全体を指すことがある。「デスティネーション・キャンペーン」は、一定期間さまざまな手段を用いて旅行目的地の広告宣伝活動を行うこと。</p> <p><b>テーブルディスカッション</b> <u>《P25》</u>            テーブルを囲み、設定されたテーマについて自由に意見を交換しながら議論する場。</p> <p><b>【な】 2 次交通</b> <u>《P38》</u>            飛行機や鉄道などの基幹的な交通手段（空港・鉄道駅）から、移動の目的地までを結ぶ交通のこと。</p> <p><b>【は】 パーク＆ライド</b> <u>《P54》</u>            自宅から自家用車で最寄りの駅まで行き、車を駐車させた後、鉄道などの公共交通機関を利用して目的地に向かうシステムのこと。</p> <p><b>フットパス</b> <u>《P29》</u>            イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと（Foot）ができる小径（こみち、Path）」のこと。</p> <p><b>並行在来線</b> <u>《P16》</u>            新幹線区間を並行する形で運行する在来線鉄道のこと。</p>	

箇所	旧	新	備考
	<p><b>【や】</b> ユニバーサルデザイン 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力のいかんを問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）。バリアフリーが高齢者や障害者を対象とした考えであるのに対し、ユニバーサルデザインはすべての人を対象にしている。</p> <p><b>用途地域</b> 都市計画法に基づく地域で、機能的な都市活動と良好な都市環境の保護を目的に、住居や商業・工業などの都市の諸機能を適切に配分するための、土地利用上の区分を行うもので、用途や形態、密度などの規制を通して、目的にあった建築物を誘導しようとするもの。</p> <p><b>【ら】</b> ラッピングバス 広告を印刷したフィルムをバスの車体全体に貼り付け、バスの車体を広告媒体とする車両のこと。</p> <p><b>RORO 船</b> 船体と岸壁を結ぶ出入路（ランプ）を備え、貨物を積んだトラックが、そのまま船内外へ自走できる「貨物専用フェリー」のこと。</p> <p><b>【わ】</b> ワークショップ あるテーマを決め、参加者が自由な討論を行いながら方向性を見出していくこと。5～6人単位でいくつかのテーブルをつくり、ファシリテーターと呼ばれる司会役の進行で、参加者が意見やアイデアを話し合い進行する。</p> <p><b>Wi-Fi（ワイファイ）</b> パソコンやスマホ、タブレットなどのネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）で LAN(Local Area Network) に接続する技術のこと。</p>	<p><b>【や】</b> ユニバーサルデザイン <a href="#">《P27》</a> 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力のいかんを問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）。バリアフリーが高齢者や障害者を対象とした考えであるのに対し、ユニバーサルデザインはすべての人を対象にしている。</p> <p><b>用途地域</b> <a href="#">《P20》</a> 都市計画法に基づく地域で、機能的な都市活動と良好な都市環境の保護を目的に、住居や商業・工業などの都市の諸機能を適切に配分するための、土地利用上の区分を行うもので、用途や形態、密度などの規制を通して、目的にあった建築物を誘導しようとするもの。</p> <p><b>【ら】</b> ラッピングバス <a href="#">《P98》</a> 広告を印刷したフィルムをバスの車体全体に貼り付け、バスの車体を広告媒体とする車両のこと。</p> <p><b>RORO 船</b> <a href="#">《P18》</a> 船体と岸壁を結ぶ出入路（ランプ）を備え、貨物を積んだトラックが、そのまま船内外へ自走できる「貨物専用フェリー」のこと。</p> <p><b>【わ】</b> ワークショップ <a href="#">《P25》</a> あるテーマを決め、参加者が自由な討論を行いながら方向性を見出していくこと。5～6人単位でいくつかのテーブルをつくり、ファシリテーターと呼ばれる司会役の進行で、参加者が意見やアイデアを話し合い進行する。</p> <p><b>Wi-Fi（ワイファイ）</b> <a href="#">《P29》</a> パソコンやスマホ、タブレットなどのネットワーク接続に対応した機器を、無線（ワイヤレス）で LAN(Local Area Network) に接続する技術のこと。</p>	
P134		<p><b>資料3 新小樽(仮称)駅周辺整備イメージ図</b></p> <div data-bbox="1673 1325 2457 1864" style="border: 1px solid red; text-align: center; padding: 50px;"> <p>パース</p> </div>	<p>資料3の追加</p> <p>■変更理由 策定会議意見の反映</p>